

平成30年度 事業報告

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

事業の状況

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという当財団設立提唱者市村氏の想いを実現するため、平成30年度も関係各方面の方々のご支援とご協力により以下の事業活動を積極的に展開し所期の成果を収めました。

1. 創立50周年

財団創立50周年を記念して、平成30年4月より「市村清新技術財団」と名称変更しました。平成30年4月16日に記念式典を第50回市村賞贈呈式に合わせ帝国ホテル東京にて開催しました。また、新規事業として地球環境関連事業（地球環境研究助成、市村地球環境賞）、及び市村賞受賞記念フォーラムを開始しました。

2. 科学技術の研究開発助成

(1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成する事業です。平成30年度は16件（総額278,750千円）の助成を決定し、平成30年8月2日及び平成31年2月13日に、財団本部において助成金を贈呈しました。なお、第2次より環境分野を設けましたが、助成案件はありませんでした。

(2) 地球環境研究助成

人類の継続的発展のためには地球環境の保全、中でも地球温暖化対策が喫緊の課題となっています。このような状況に鑑み、重要課題解決のための研究テーマに対して助成を行う事業です。審査委員会の推薦に基づき4件（総額16,000千円）の助成を決定し、平成31年2月15日に、経団連会館において助成金を贈呈しました。

3. 新技術顕彰(市村産業賞、学術賞、地球環境賞の贈呈)

(1) 市村賞の贈呈

平成30年度の第51回の市村賞は、産業賞（本賞1件、功績賞2件、貢献賞5件）、学術賞（功績賞3件、貢献賞5件）、地球環境産業賞（貢献賞2件）、地球環境学術賞（貢献賞3件）合わせて21件（賞金総額90,000千円）の受賞が

決定しました。第51回市村賞贈呈式は平成31年4月12日に、帝国ホテル東京「孔雀の間」にて行い、桜井会長より、表彰状、賞金を贈呈しました。

(2) 国際技術交流：国際研究集会参加助成及び国際研究集会開催助成

市村学術賞受賞者が国際会議、国際研究集会に出席する場合の渡航旅費の助成について、4件(3,442千円)を助成しました。

国際研究集会開催助成は、5件(9,900千円)を助成しました。

(3) 市村賞受賞記念フォーラムの開催

これまで、市村産業賞受賞者による記念講演会や学術賞受賞者による先端技術講演会を、(株)リコーの事業所でそれぞれ開催してきました。

今年度より、財団創立50周年の記念事業の一つとして、市村賞受賞者や市村賞にゆかりのある第一線の研究者・技術者に最先端の科学技術について講演いただくことで、当財団の活動目的である科学技術の振興を図るとともに地域産業振興への貢献を目的に、市村賞受賞記念フォーラムを開催しました。初回は当財団の創設者である市村清氏の出身地に近い、グランドハイアット福岡にて、平成30年9月3日に行いました。

基調講演として、(株)三菱総合研究所 理事長 小宮山 宏 様(市村地球環境学術賞 審査委員長)による「プラチナ社会の実現に向けて -地球環境問題と科学技術-」と題してお話し頂くとともに、第50回市村産業賞・学術賞で功績賞を受賞された5テーマにつき受賞内容を中心に、独創的な創意工夫と実用化への取り組みについてお話しいただき、約160名の方が熱心に聴講され、活発な質疑等が行われました。会場では、フォーラムと併せて財団の各事業の紹介、並びに新技術開発助成で完了認定を受けた企業の開発成果の展示も実施しました。終了後には同ホテル内にて、交流会を実施し、講演者や参加者間での技術交流が行われました。

4. 少年少女創造性育成

(1) 第49回市村アイデア賞

第49回市村アイデア賞は、関係者の協力を得ながら各地に出向いて募集活動を行ってきました。その結果、33,035件の応募がありました。応募数は毎年増加していましたが、今回も3万件を超え、過去最高を更新しました。

審査委員会の推薦に基づき、その中から個人賞として文部科学大臣賞1件、市村アイデア優秀賞1件、審査委員長特別賞1件、朝日小学生新聞賞1件、朝日中高生新聞賞1件、科学技術館 館長賞1件、市村アイデア記念賞6件、市村アイデア奨励賞25件、佳作50件、努力賞54件を、団体賞として最優秀団体賞1件、優秀団体賞2件、奨励団体賞3件、努力団体賞10件を決定しました。

平成30年11月16日に北の丸の「科学技術館」に於いて表彰式を実施し、

賞状、トロフィー、奨学金を贈呈しました。また、佳作に対し楯、努力賞に対し賞状を贈呈し表彰しました。なお、個人賞の奨学金と団体賞の賞金の合計は4,730千円でした。

(2) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などをおして、科学の原理を楽しみながら理解し、科学技術への興味、意欲を高めることをねらいに(公財)日本科学技術振興財団との共催、文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新聞社の後援、(株)リコーの特別協賛で「かがく・夢・あそび」をスローガンにワークショップを実施しました。

平成30年度は、半日コースを平成30年11月16日市村アイデア賞の表彰式後に北の丸の「科学技術館」で実施し、受賞者の小・中学生を含む保護者・引率の先生など合わせて約150名が参加しました。冬休み1日コースは平成30年12月8日、9日に市村清氏の出身地である佐賀県の「神埼市中央公民館」で(株)リコー、リコージャパン(株)佐賀支社の特別協賛を得て小・中学生53名、保護者26名が参加し実施しました。また春休み1日コースは平成31年3月23日、24日に北の丸の「科学技術館」で行い、小・中学生58名、保護者43名が参加しました。

5. 植物研究助成

第27回の植物研究助成は、平成30年5月11日熱海の植物研究園において、研究者22名に総額32,740千円を贈呈しました。また贈呈式後、寺島先生(植物研究助成審査委員)の講演を行いました。

平成30年度に募集、審査を行った平成31年度第28回植物助成では、24件(32,980千円)の助成を決定しました。

6. 植物研究園の一般公開

春の一般公開を平成30年4月17日～26日の15日間行いました。期間中の来場者は445名でした。紅葉に合わせて秋の一般公開を平成30年11月23日～29日の7日間行いました。期間中の来場者は442名でした。